

# 2007年度(平成20年3月期) 決算説明会

大日本住友製薬株式会社  
2008年5月12日

# 2007年度決算の概要

# 経営成績

金額単位：億円

	06年度	07年度	前期比		業績予想	差額
			増減額	増減率		
売上高	2,612	2,640	28	1.1%	2,670	△ 30
営業利益	456	398	△ 57	△12.6%	410	△ 12
経常利益	432	377	△ 55	△12.8%	402	△ 25
当期純利益	226	256	30	13.2%	247	9

(注)1.記載金額は億円未満を四捨五入しております。

2.当期より「DSファーマバイオメディカル株式会社」を連結子会社を含めております。

# 売上高の増減要因

金額単位：億円

	06年度	07年度	前期比	
			増減額	増減率
売上高	2,612	2,640	28	1.1%

## (増収要因)

- ・戦略4製品の増加
- ・輸出の増加

## (減収要因)

- ・戦略4製品以外の既存製品の減少

# 戦略4製品の売上高

金額単位：億円

	06年度	07年度	前期比	
			増減額	増減率
アムロジン	592	636	45	7.6%
ガスモチン	185	195	10	5.5%
プロレナール	138	145	8	5.5%
メロペン	143	148	5	3.2%
戦略製品計	1,057	1,124	67	6.3%

(注) 売上高は、国内売上高・リベート控除前で記載しております。

# 売上原価・販売費及び一般管理費

金額単位：億円

	06年度		07年度		前期比	
		対売上高 比率		対売上高 比率	増減額	増減率
売上高	2,612	—	2,640	—	28	1.1%
売上原価	993	38.0%	994	37.6%	0	0.0%
売上総利益	1,619	62.0%	1,646	62.4%	27	1.7%
販売費及び一般管理費	1,163	44.6%	1,248	47.3%	85	7.3%
販売費・一般管理費	754	29.0%	775	29.4%	21	2.8%
研究開発費	409	15.6%	473	17.9%	64	15.7%
営業利益	456	17.4%	398	15.1%	△ 57	△12.6%

(注) 売上原価には返品調整引当金戻入(繰入)額を含めて記載しております。

## (売上原価)

- ・利益貢献度の高い戦略製品の売上増加による売上原価率の改善

## (販売費及び一般管理費)

- ・広告宣伝費の増加
- ・研究開発費の増加

# 営業外損益および特別損益

金額単位：億円

	06年度	07年度	前期比	
			増減額	増減率
営業利益	456	398	△ 57	△12.6%
営業外損益	△ 24	△ 22	2	
金融収支(受取配当金を含む)	9	14	5	
寄付金	△ 19	△ 18	1	
その他	△ 14	△ 18	△ 4	
経常利益	432	377	△ 55	△12.8%
特別損益	△ 48	38	86	
投資有価証券売却益	—	38	38	
特別退職金	△ 29	—	29	
訴訟関連費用	△ 10	—	10	
退職給付制度改定に伴う損失	△ 6	—	6	
固定資産減損損失	△ 2	—	2	
法人税等・少数株主利益	△ 158	△ 159	△ 1	
当期純利益	226	256	30	13.2%

# 財政状態

金額単位：億円

	前期末 (2007年3月31日)	当期末 (2008年3月31日)	増減額
資産の部	3,825	3,998	173
流動資産	2,343	2,511	167
固定資産	1,482	1,487	5
負債の部	765	815	50
流動負債	560	679	119
固定負債	205	136	△69
純資産の部	3,060	3,183	123

(自己資本比率)

79.8%

79.6%

## (資産の部)

- ・短期貸付金の増加…………… 400億円
- ・現金及び預金の減少…………… △ 276億円

## (負債の部)

- ・未払金の増加…………… 71億円

# キャッシュ・フロー

金額単位: 億円

<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>+ 325</b>
・税金等調整前当期純利益	+ 415
・減価償却費	+ 119
・売上債権の減少額	+ 24
・たな卸資産の増加額	△ 21
・法人税等の支払額	△ 156
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 510</b>
・有形固定資産の取得による支出	△ 71
・短期貸付金の純増額	△ 400
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 69</b>
・配当金の支払	△ 64

当期末現金及び現金同等物残高 563億円(前期末比△255億円)

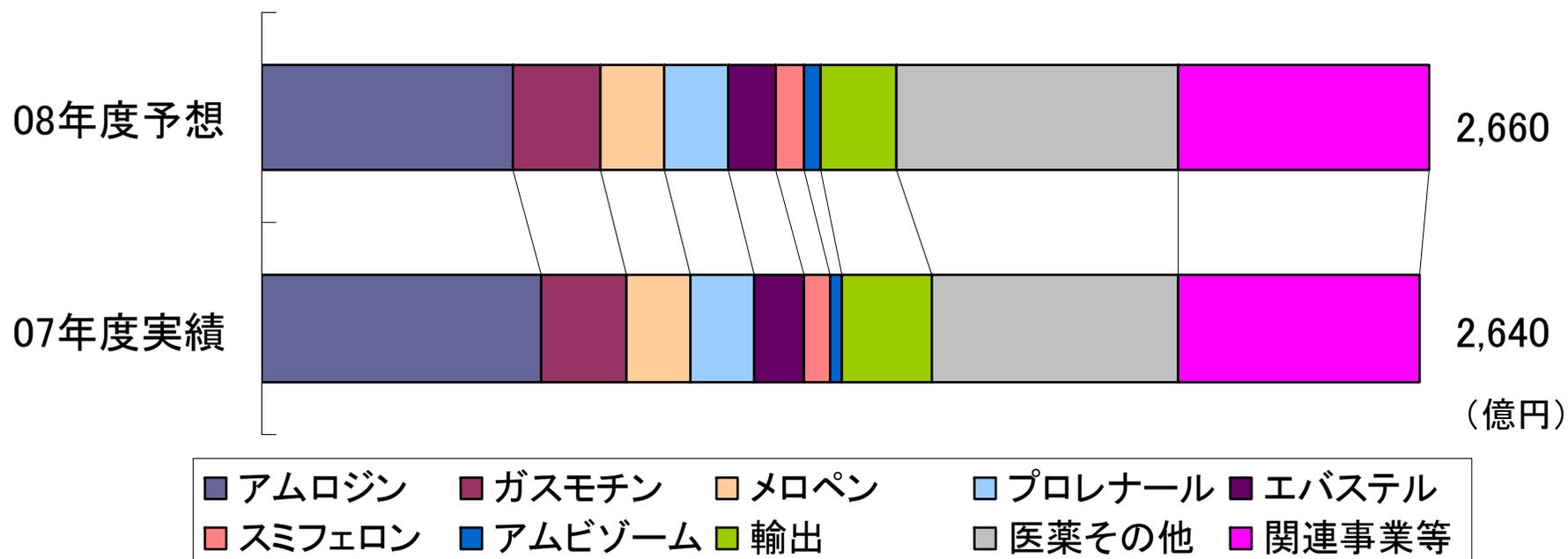
# 2008年度業績予想の概要

# 2008年度業績予想

金額単位：億円

	07年度 年間実績	08年度 年間予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	2,640	2,660	20	0.8%
営業利益	398	305	△ 93	△ 23.4%
経常利益	377	305	△ 72	△ 19.0%
当期純利益	256	185	△ 71	△ 27.7%
研究開発費	473	565	92	19.5%

# 売上高計画



## (医薬品)

営業活動強化の諸施策の効果を発揮することなどにより、新製品や戦略4製品を中心に拡販し、薬価改定(約100億円)や後発品参入の影響をカバーする

## (関連事業等)

動物薬、甘味料等の新製品を中心に拡販に努める

# 売上原価・販売費及び一般管理費の内訳

金額単位：億円

	07年度		08年度		前期比	
	実績		業績予想		増減額	増減率
売上高	2,640	—	2,660	—	20	0.8%
売上原価	994	37.6%	1,025	38.5%	31	3.1%
売上総利益	1,646	62.4%	1,635	61.5%	△ 11	△ 0.7%
販売費及び一般管理費	1,248	47.3%	1,330	50.0%	82	6.6%
販売費・一般管理費	775	29.4%	765	28.8%	△ 10	△ 1.3%
研究開発費	473	17.9%	565	21.2%	92	19.5%
営業利益	398	15.1%	305	11.5%	△ 93	△ 23.4%

(注) 売上原価には返品調整引当金戻入額を含めて記載しております。

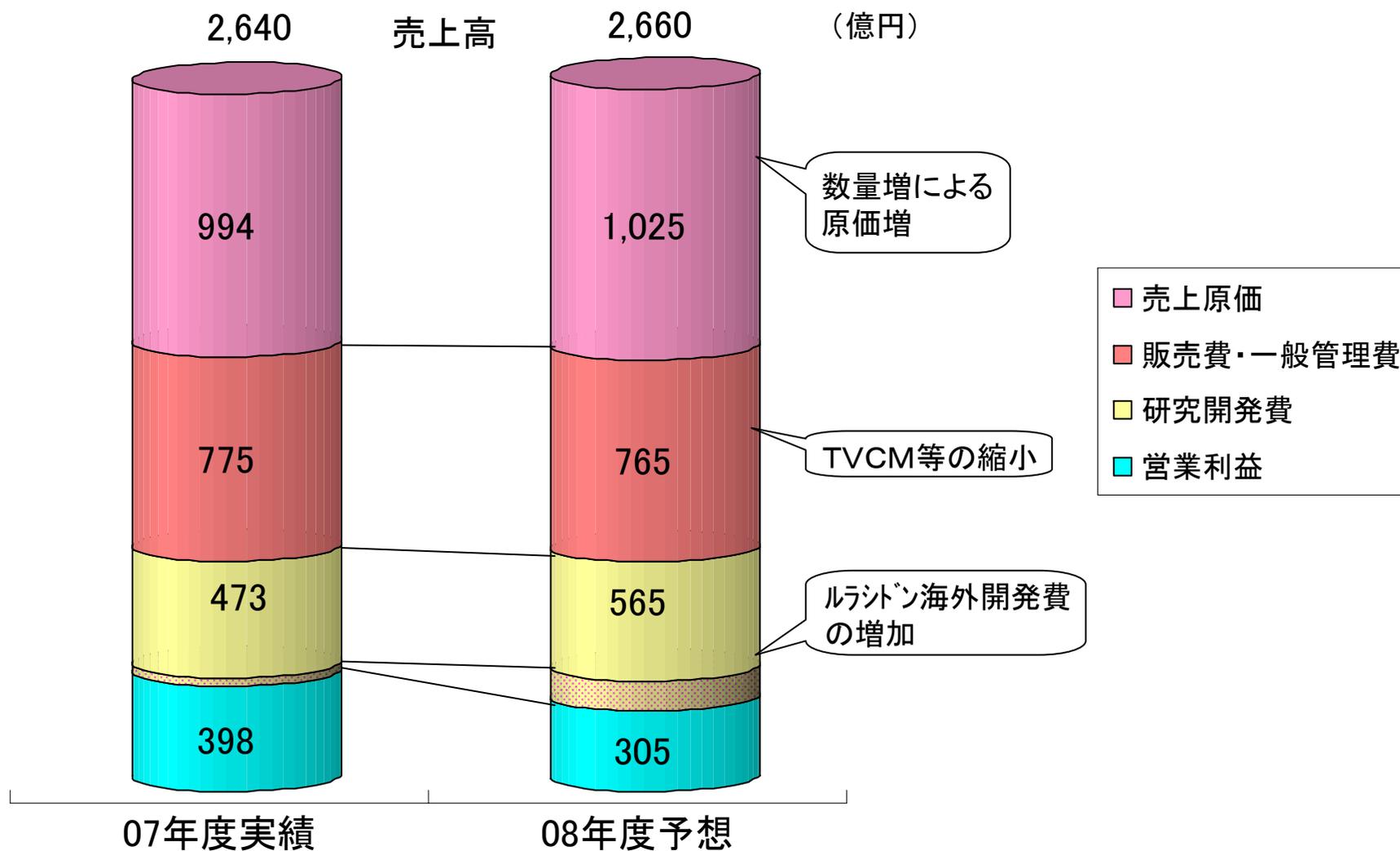
## (売上原価)

- ・薬価改定の影響などにより原価率アップ

## (販売費及び一般管理費)

- ・ルラシドンの海外自社開発への積極的な投資
- ・「選択と集中」の徹底による効率的な事業経営

# 損益構造推移



# 株主還元について

## 1. 基本方針

- ・株主のみなさまへ常に適切な利益還元を行うことが最も重要な経営方針の一つ
- ・配当につきましては、業績に裏付けられた成果を適切に配分することを重視するとともに、企業価値のさらなる向上に向け、将来の成長のための積極的な投資を行いつつ、強固な経営基盤の確保と財務内容の充実を図ることなどを総合的に見極め、決定
- ・中期経営計画目標：最終年度の2009年度に連結配当性向30%を実現

## 2. 配当推移

	06年度	07年度(予定)	08年度(予定)
1株当たり配当金(円)	14.00	18.00	18.00
連結配当性向(%)	24.6	28.0	38.7

〈参考〉

純資産配当率(%)	1.9	2.3	2.2
-----------	-----	-----	-----

# 国内営業戦略

## 2008年度重点課題

- アムロジンおよび新製品(アバプロ・ロナセン)への注力
- 行動と意識を変革し、強い営業集団となる  
ディテールの量と質を上げるための取組みの施策実施
  - 「行動変える化」キャンペーン
  - 「ディテールを考えてみよう月間」等
- 事業部を主体とした組織力による地域密着型営業の推進による顧客満足度の向上

# アムロジン・アバプロ

## ■ アムロジン

- OD錠の有用性を訴求

## ■ アバプロ Power & Protection

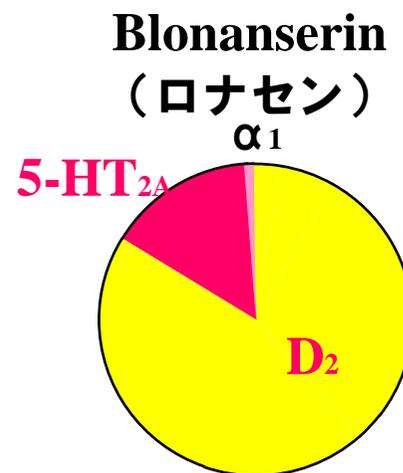
- 「優れた降圧効果」と「腎保護作用のエビデンス」の両方を有する長時間作用型ARB
- 薬価収載後、速やかに発売予定

## ■ 循環器領域戦略

- アムロジンとアバプロはベストパートナー
- 循環器領域の専門性向上による情報提供力の強化

# ロナセン

- 新薬発足後初の自社創製の新薬、将来のコア領域の製品
- Dopamine-Serotonin Antagonist (DSA)
- 強いドーパミン遮断作用により幻覚・妄想などの陽性症状に対する効果が期待できる



## その他

- **ガスモチン**  
ソネット・エムスリーの「MR君」の継続：視聴医師を1万人拡大し、合計約2万人の予定
- **プロレナール**  
疾患啓発活動およびプロレナールのブランド認知の向上
- **メロペン**  
院内感染対策に向けたMR研修を実施、外科への注力
- **アムビゾーム**  
新たに「アムビゾーム推進グループ」を設置

# 臨床開発の現況

# 臨床開発の現況

申請中	第Ⅲ相試験	第Ⅱ相試験		第Ⅰ相試験
肝細胞癌治療剤 SM-11355 (ミリプラチン)	糖尿病治療剤 SMP-508 (レパグリニド)	糖尿病合併症治療剤 AS-3201 (ラニスタット)	糖尿病治療剤 SMP-862 (トホルミン)	過活動膀胱治療剤 SMP-986
パーキンソン病 AD-810N (ゾニサト)	統合失調症治療剤 SM-13496 (ルラシドン)	関節リウマチ治療剤 SMP-114	認知症治療剤 AC-3933	糖尿病治療剤 DSP-3235
C型代償性肝硬変 スミフェロン	発熱性好中球減少症 メロベン			アレルギー性疾患治療剤 (P1準備中) TLR7アゴニスト
バリウム注腸X線造影 検査前処置 ガスモチン	統合失調症治療剤 (米国・欧州等) SM-13496 (ルラシドン)	関節リウマチ治療剤 (欧州) SMP-114	認知症治療剤 (米国・欧州) AC-3933	気管支喘息治療剤 (米国) SMP-028
		統合失調症治療剤 (米国・欧州) AD-5423 (プロナセル)	過活動膀胱治療剤 (米国・欧州) SMP-986	糖尿病治療剤 (欧州) DSP-7238
				糖尿病治療剤 (米国:P1準備中) DSP-8658

● 国内開発 (新有効成分)   
 ● 国内開発 (適応症追加)   
 ● 海外自社開発

本年2月からの変更を白抜き文字で表示

# ルラシドンの開発計画(1)

## ■海外開発

- 統合失調症を対象とした長期安全性投与試験(PEARL Safety)を開始した(3月)
- 試験計画概要
  - 対象患者: 統合失調症患者
  - 対照薬: リスペリドン
  - 目標症例数: 600例
  - 治験実施国: アメリカ、南アフリカ、タイ他
  - 試験デザイン: 無作為割付、二重盲検、並行群間比較
  - 評価項目: 安全性
- 統合失調症患者を対象とした実薬群を含む第Ⅲ相試験(PEARL #3)、双極性障害患者を対象とした第Ⅲ相試験を2008年度に開始予定

## ルラシドンの開発計画(2)

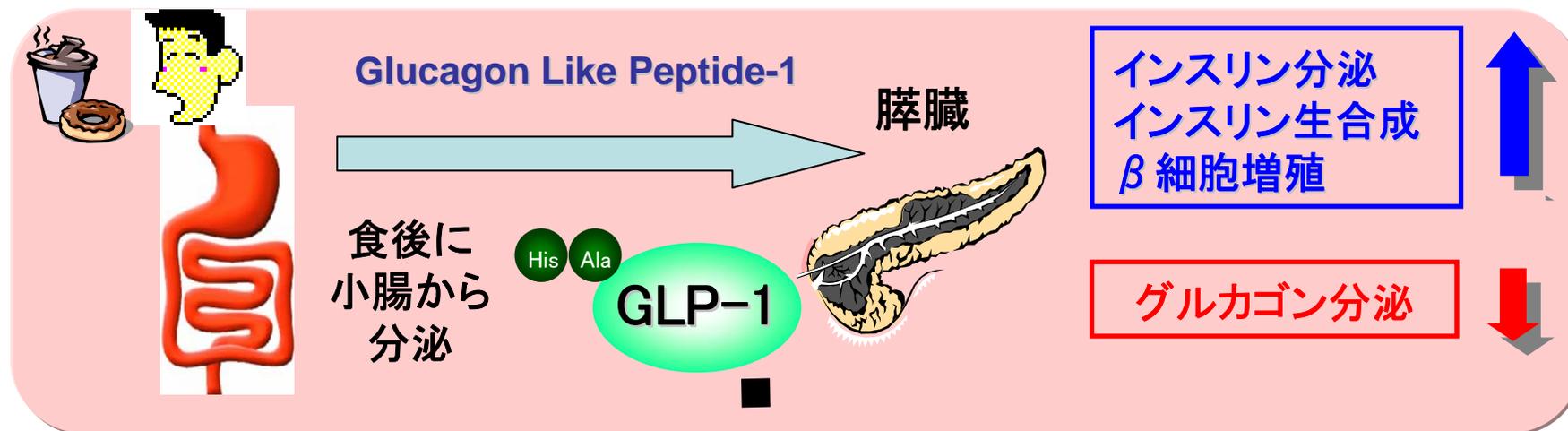
### ■国内開発

- 2007年に医薬品総合機構と対面助言実施
- 2008年4月 第Ⅲ相試験の治験届を提出
- 試験計画概要
  - 対象患者: 統合失調症患者
  - 対照薬: プラセボ
  - 目標症例数: 440例
  - 治験実施国: 日本、韓国、台湾
  - 試験デザイン: 無作為割付、二重盲検、並行群間比較
  - 評価項目: PANSS、CGI-Sなど

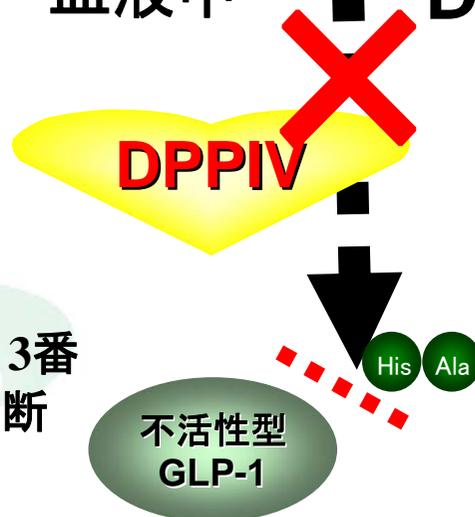
# DSP-7238の概要

- 対象疾患                      糖尿病
- 薬理学的機序                  DPPIV阻害薬
- 製剤                              錠剤
- 自社・導入                    自社品
- 開発段階                      第I相試験(欧州)

# DSP-7238の創薬コンセプト



血液中 DPPiV阻害薬



- ▶ 血中の蛋白分解酵素
- ▶ GLP-1のN末端より2、3番目のAla-Proの間を切断

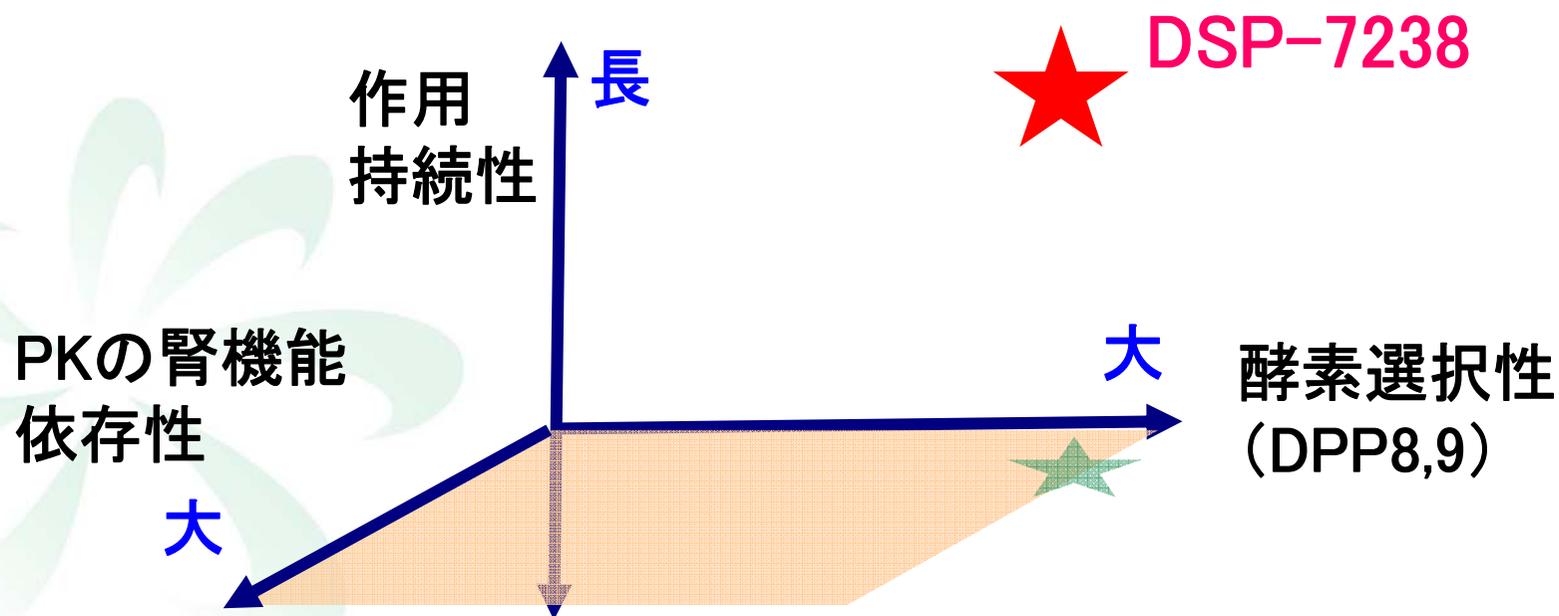
## 特長

- ・ 食後高血糖改善
- ・ 低血糖の危険性低い
- ・ 1日1回服用
- ・ 良好なHbA1c改善作用

DPPiV阻害薬は安全性の高い、新規メカニズム薬剤である

## DSP-7238の特徴

- 新規な化学構造
- 優れた酵素選択性と基質特異性
- 強力かつ持続性に優れた薬効
- PKが腎機能の影響を受けない



## DSP-8658の概要

- 対象疾患 2型糖尿病
- 薬理学的機序 PPAR $\alpha$  /  $\gamma$  モジュレーター
- 製剤 錠剤
- 自社・導入 自社品
- 開発段階 第I相試験準備中(米国)

# DSP-8658の創薬コンセプト

## 既存のPPAR $\gamma$ アゴニストのプロファイル

### 特長

- ・強力な血糖降下作用
- ・低血糖の危険性低い

### 副作用

- ・体重増加、肥満助長
- ・体液貯留、浮腫、心不全

### ① 副作用の改善

⇒ PPAR $\gamma$ の活性化を部分的に

### ② 脂質代謝改善作用の付加

⇒ PPAR $\alpha$ の活性化を付加

## DSP-8658

### PPAR $\alpha/\gamma$ モジュレーター

## DSP-8658の特徴

- 新規な化学構造（非チアゾリジンジオン骨格）
- 優れた糖代謝改善作用
- 脂質代謝改善作用を併せ持つ
- 循環血漿量増加・体重増加などの副作用を持たない

DSP-8658

既存のインスリン抵抗性改善薬

脂質代謝  
改善作用

糖代謝  
改善作用

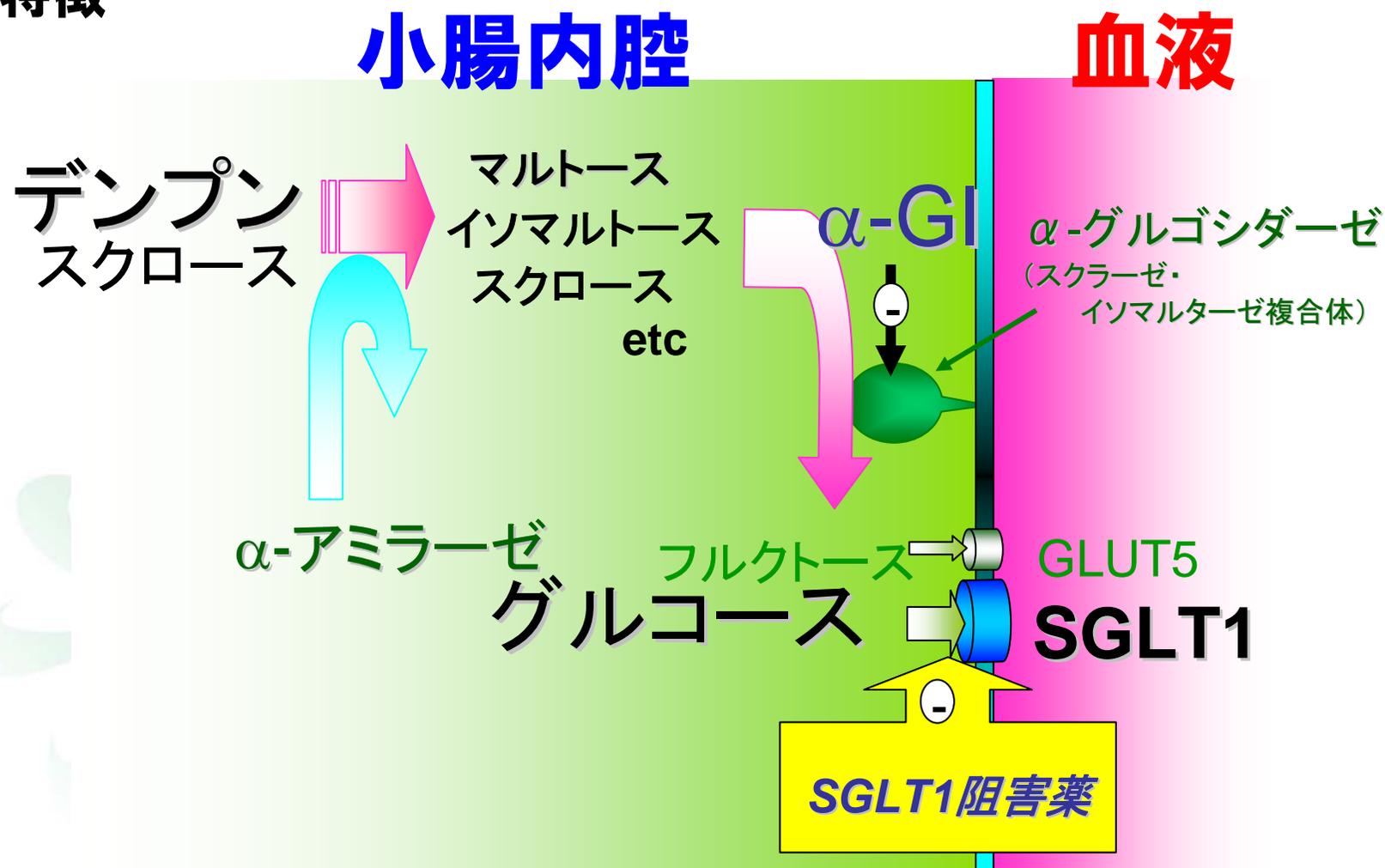
循環血漿量  
増加作用  
体重増加作用

## DSP-3235の概要

- 対象疾患                      糖尿病
- 薬理学的機序                ナトリウム依存性グルコース輸送体1 (SGLT1) 阻害薬
- 製剤                              錠剤
- 自社・導入                    キッセイ薬品工業(株)からの導入
- 開発段階                      第I相試験

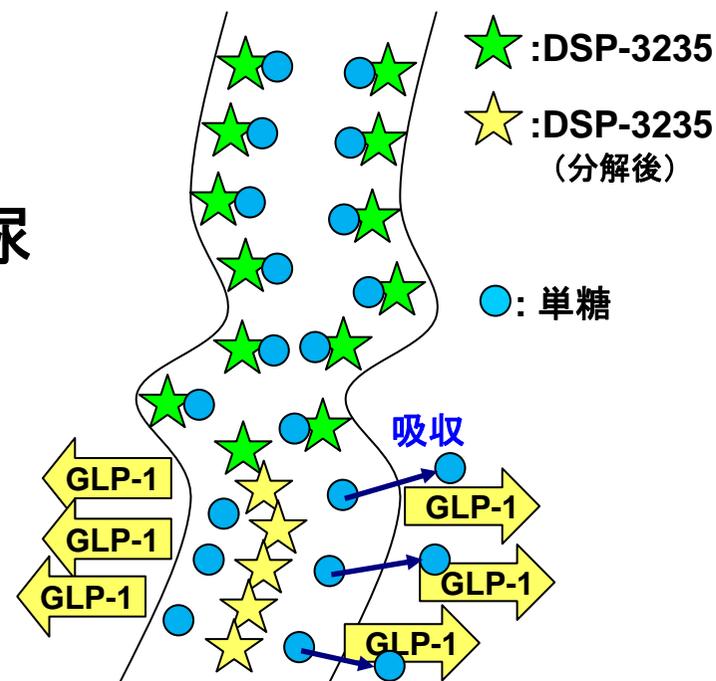
# DSP-3235の創薬コンセプト

SGLT1の働きを直接阻害してグルコースの消化管吸収を抑制することにより、食後高血糖を改善する。本剤は小腸内腔で作用するのが特徴



# DSP-3235の特徴

- 新規な化学構造
- 軽症患者から適用可能であり、糖尿病の基礎治療剤になる
- 従来の $\alpha$ -GI剤とは異なり、新しいアプローチの糖尿病治療剤として期待



## DSP-3235

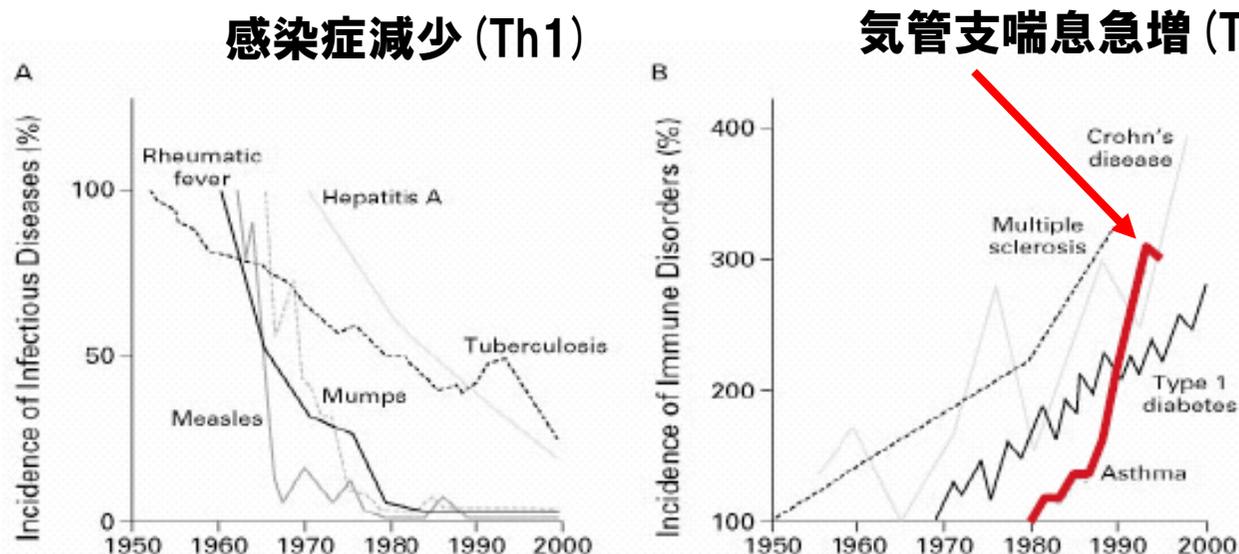
- 消化管下部へ移動するに従って3235が分解されるため徐々に作用が消失
- 副作用(消化器症状)軽減が期待される
- 消化管下部にグルコースが流れることによりGLP-1分泌促進

## TLR7 アゴニストの概要

- 対象疾患                      喘息、アレルギー性鼻炎
- 薬理的機序                    選択的なToll-like receptor 7 (TLR7)アゴニスト作用を有する新規な免疫調節剤
- 自社・導入                    AstraZeneca社との共同研究からの創製品
- 開発段階                      第I相試験実施中(欧州: AstraZeneca社)  
第I相試験準備中(国内: 自社)

# TLR7 アゴニストの特徴

## 創薬コンセプト(衛生仮説)



近年のアレルギー疾患の急増は、衛生状態の向上による感染症の減少が原因と考えられる。

Jean-Francois Bach. *New Engl. J. M.* 347:911,2002



TLR7アゴニストは Th1を誘導、Th2を抑制し、アレルギー患者に長期寛解をもたらす

## 糖尿病領域での展開(国内)

	製品	開発品	
インスリン分泌促進	グリミクロン <sup>®</sup>	SMP-508 (レパグリニド)	<b>DSP-7238</b> (DPPIV阻害)
インスリン抵抗性改善 肝糖新生抑制	メルビン <sup>®</sup>	SMP-862 (メホルミン)	<b>DSP-8658</b> (PPAR $\alpha$ / $\gamma$ モジュレーター)
糖吸収抑制	セイブル <sup>®</sup>		<b>DSP-3235</b> (SGLT1阻害)
糖尿病合併症		AS-3201 (ラニレストット)	

## 将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。